

# 古い時代の「葦股」か

## 宮大工が興味、調査

米子・八幡神社

米子市東八幡の八幡神社(内藤和比古宮司)の「葦股」の部材である「葦股」が古い時代に作られた可能性があるとして4日、安来市伯太町の宮大工、後藤史樹さん(55)が調査を行った。同神社では「安

土桃山時代以前のものである」と伝われており、事実なら山陰では稀少で、調査結果が注目される。葦股は社寺建築において奈良時代から作られてきた部材で、カエルが股を広げた形に似ている。葦股は江戸時代中期に建立された拝殿内の2カ所に設置されている。100センチ×37センチ、それぞれ菊と桐の花が彫られている。

葦股は社寺建築において奈良時代から作られてきた部材で、カエルが股を広げた形に似ている。

調査では、葦股を取り外して観察。今後は拝殿外側や本殿に設置されている葦股も調査し、比較検討する。「断定は出来ないが、形の特徴から鎌倉時代以前のものの可能性がある」と後藤さん。内藤宮司(左)は「いいものを次の世代に伝えよう」とした当時の宮大工の心意気を感じた。職人の目で確かめていた「葦股」と話している。



葦股を調べる後藤さん(左)と内藤宮司

# 町内企業が初購入

## J-VER クレジット 日南町と契約

排出する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を森林の吸収量で相殺する「カーボン・オフセット」(J-VER)を事業活動に活用しようと森林整備などを手がけるグリ

ーン・シャイン(日南町三栄、平田広志社長)は9日、同町が所有するJ-VERクレジットを購入する契約を結んだ。同町のJ-VERクレジットを町内企業が購入するのは初めて。

カーボン・オフセットは、適正に管理した森林が吸収するCO<sub>2</sub>量を国の機関が「J-VERクレジット」として認証し、CO<sub>2</sub>排出量を減らしたい事業者が買い取る仕組み。同町では2008～12年度に森林整備を行った町有林から算出された約6600トンを、中国地方最大級の吸収量を認

9日に行われた調印式で、同町の増原聡町長は「初めて町内の企業に買っていたら、感謝無量」と感謝。平田社長は「今回の購入を機に、環境に配慮する気持ちで山に入りたい」と話した。(田子首樹)



米子 かし初個展 藤さんのクレヨン画



笑顔で作品を紹介する内藤さん 現した作 内藤さんの個展は 9月まで 同展では 藤乃君

夏の楽しみのお

7.26(土) 8.31(日) 開催

光景を明るくした作

内藤さんの個展は 9月まで 同展では 藤乃君

皆トラ 盛り上げ

皆生トライアスロン協会は 7月20日に鳥取県西部で開かれる「第34回全日本トライアスロン皆生大会」(新日本海新聞社特別後援)の記念Tシャツ写真製作。大会公式ホームページのほか、米子市観光センター(同市皆生温泉)などで販売している。

吸汗性と通気性に優れ、スポーツ時のむれや肌のべたつきを軽減する生地を採用。デザインは、スイムとバイク、ランをそれぞれにデザインし、選手たちのチャレンジ精神を表現している。